

要 覧

青森県水産総合研究センター Aomori Prefectural Fisheries Research Center



増養殖研究所



内水面研究所



太平洋

陸奥湾

平内町

青森市

鱒ヶ沢町

十和田市

八戸市

日本海



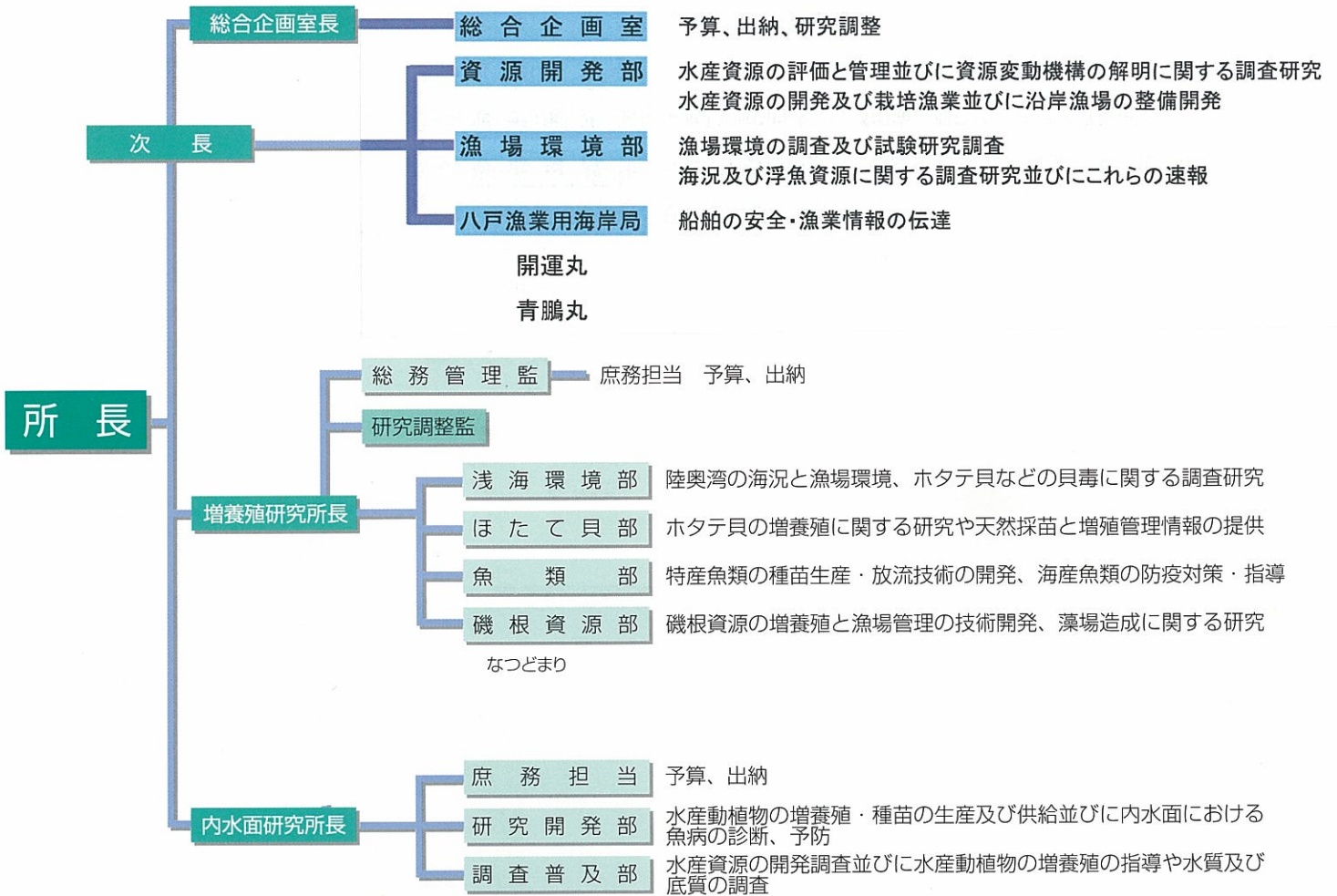
八戸漁業用海岸局



水産総合研究センター

水産総合研究センター機構図

(平成20年4月1日 現在)



21世紀の漁業の取組み

部門別研究推進方向



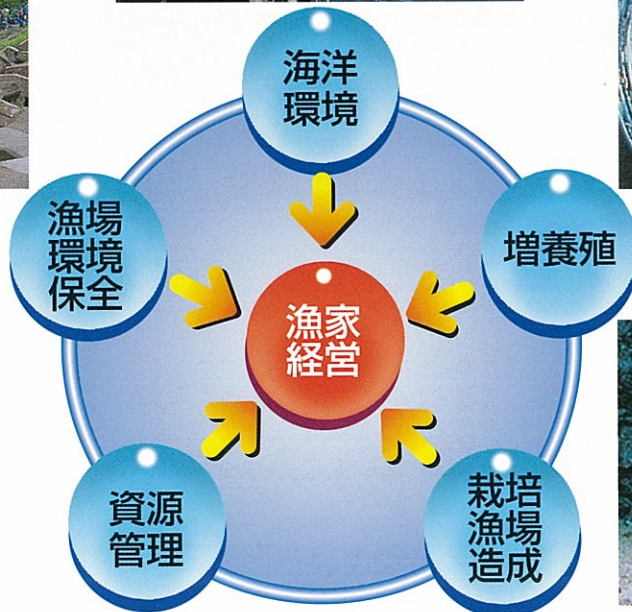
海岸清掃



付着稚貝調査



ヒラメのポスター (42cm×60cm)



上段(右) アワビ

水産総合研究センター

新しい漁業の開発

漁業の対象になっている魚の生態を調べ、より効率のよい漁法・漁具の開発を行っています。

また、現在利用されていない水産資源を活用する手法や魚礁の設置による新漁場の開発なども行っています。さらに魚のライフサイクルや分布量、移動・回遊などを解明することで水産資源の効果的な利用、つまり資源管理の基礎データとしても利用できます。

● 資源開発部

さけ増殖管理推進事業

さけ資源を効率的に増やすために、稚魚の放流適期調査や親魚の来遊量を予測するための調査などを実施しています。



罎をカットした稚魚を再捕し、移動や成長を調査

資源管理漁業の推進

資源管理は「船から浜から市場から」という言葉もあるように、漁業資源の有効利用を図るため漁業者と一体となって進める必要があります。関係者には資源管理用スケール（水産振興課制作）を配布し、啓蒙普及に努めています。



増養殖研究所

● 浅海環境部

浅海環境部では本県最大の養殖海域である陸奥湾の気象、海象を時空間的に観測し、海況情報を漁業者に提供するとともに、水温などの予測精度の高度化研究を進めています。

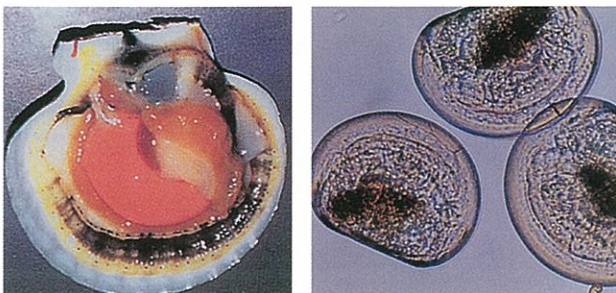
また、水質、底質、底生動物をモニタリング調査し、良好な漁場環境の維持、達成を図っています。さらに、ホタテ貝等の二枚貝の毒化状況と毒化原因プランクトンの出現動向をモニタリング調査して貝毒速報を漁業者に提供し、貝毒の発生を監視しています。



自動観測ブイ

● ほたて貝部

青森県の沿岸漁業における重要な水産物であるホタテガイについて、生産の安定を図るため、増養殖に関する調査研究を推進するとともに、漁業者に各種の情報提供を行っています。



母貝成熟度調査

ラーバ調査

● 漁場環境部

アカイカ漁場調査

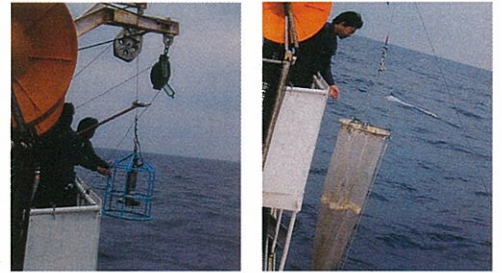
太平洋の広域に分布するあかいかの分布・回遊・生態調査並びに漁場探索を行います。



太平洋上でのあかいかの操業風景（開運丸）

海洋観測

漁業対象生物の環境を調査し、漁況予報などを行います。



CTDで水温や塩分を観測（東奥丸）

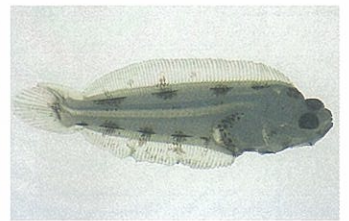
プランクトンネットによる観測（東奥丸）

● 魚類部

栽培漁業に移行する前の段階としての種苗量産技術開発研究が大きな課題となっています。当所では現在、マダラ、マコガレイ、ウスメバルといった本県沿岸域で重要な漁業資源で、全国的に見て特産種となっている魚種を対象として、その技術開発に取り組んでいます。



ウスメバル稚魚



マコガレイ 孵化後40日目

● 磯根資源部

磯根資源部では本県沿岸海域に生育する海藻（草）類の生育状況や、それを利用しているウニ、サザエ、アワビ、ナマコなどの生息状況の調査・研究を行い、磯根資源全般にわたる増養殖技術の開発、磯焼けに対処してコンブの安定生産を目指す漁場管理技術の開発、ホンダワラ類、アマモ類などの藻場造成技術開発、さらにエゴノリ等の人工種苗生産に取り組んでいます。



藻場造成（スゲアマモ）

雑海藻とウニの蝸集状況

内水面研究所

●研究開発部

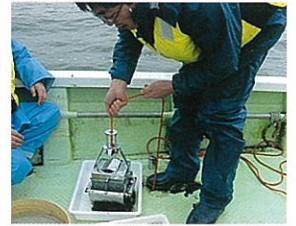
- 1 バイテク魚作出技術開発試験
- 2 優良形質魚作出技術等開発試験
- 3 なまず種苗量産技術開発試験
- 4 魚病試験事業
- 5 魚病研修事業
- 6 養殖水産動物保健対策推進事業
- 7 十和田湖資源対策事業



ナマズの稚魚

●調査普及部

- 1 しじみ資源管理対策調査事業
- 2 小川原湖しらうお資源対策調査事業
- 3 保護水面管理事業
- 4 さけ・ます増殖管理推進事業調査
- 5 漁場保全対策推進事業調査
- 6 いwana資源増大技術開発試験
- 7 ブラックバス等外来魚対策事業調査



ヤマトシジミサンプリング

所内で飼育している主な淡水魚

ニジマス サケ目、サケ科、サケ亜科、サケ属



原産地は、北アメリカで、日本には明治10年に移入された。青森県には大正2年に移入された。

ニジマス(アルビノ) サケ目、サケ科、サケ亜科、サケ属



突然変異で体色の色素が欠乏して生まれたニジマス。青森県では、昭和40年代の初期に岩手県から移入された。

ブラウントラウト サケ目、サケ科、サケ亜科、タイセイヨウサケ属



原産地は北部ヨーロッパ。日本には、昭和の初期にカワマス(アメリカイワナ)卵に混じて持ち込まれたといわれている。

イトウ サケ目、サケ科、サケ亜科、イトウ属



日本最大の淡水魚と言われる。日本では青森県が南限と言われ、昭和の初期までは小川原湖に生息し漁獲されていた。現在、天然魚は北海道にだけ生息している。

ヒメマス(ベニザケ) サケ目、サケ科、サケ亜科、サケ属



ベニザケが降海せず、一生を湖で生活するようになったもの。十和田湖には、明治35年青森県水産試験場が北海道支笏湖から発眼卵で移入し、翌年、その一部をふ化稚魚として和井内貞行氏が放流した。

カワマス サケ目、サケ科、サケ亜科、イワナ属



原産地は、北アメリカで、アメリカイワナの別称をもつ。明治35年に北米から日本に移入され、現在は日本各地で養殖されている。

スギノコ(サクラマス) サケ目、サケ科、サケ亜科、サケ属



青森県下北郡大畑町の大畑川特産。海で捕れるものや、海から川へ上がってくる大型のものをサクラマス、河川に生息し、体側に楕円斑(バーマーク)のあるものをヤマと分けて呼んでいる。大畑川の赤滝より上流域に生息する陸封型のものをスギノコと呼んでいる。

ナマズ ナマズ目、ナマズ科、ナマズ属



ほぼ全国の湖沼や河川の中・下流域の泥底、砂泥底に生息する。夜行性できわめて貪食。体にはウロコがない。

シナイモツゴ コイ科、ヒガイ亜科、モツゴ属



関東から東北地方にかけて広く分布していたが、近年絶滅したところが多い。環境庁のレッドデータブックで希少種に指定されている。県内では青森市に生息している。

調査に活躍する試験船・調査船



「開運丸」208トン 平成6年2月8日 竣工

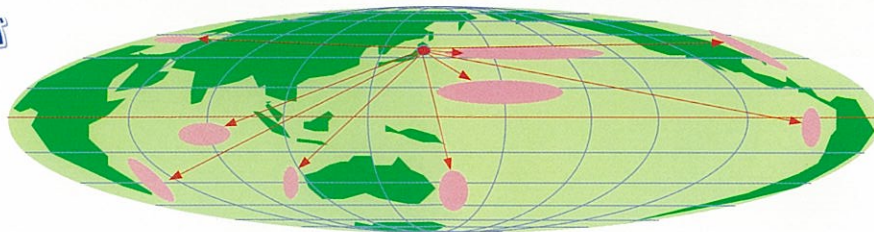


「青龍丸」65トン 平成11年3月23日 竣工



「なつどまり」24トン 平成8年2月29日 竣工

世界の海を結ぶ 漁業無線



青森県水産総合研究センター

〒038-2761

青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字舞戸町字鳴戸384-37

TEL 0173-72-2171・FAX 0173-72-2778

(八戸漁業用海岸局

〒031-0822

青森県八戸市大字白銀町字三島下35

TEL 0178-33-1535・FAX 0178-34-1281)

増養殖研究所

〒039-3381

青森県東津軽郡平内町大字茂浦字月泊10

TEL 017-755-2155・FAX 017-755-2156

内水面研究所

〒034-0041

青森県十和田市大字相坂字白上344-10

TEL 0176-23-2405・FAX 0176-22-8041